

おおくち 号外

11/12(金)蒲郡市で開催

全国大会出場決定



祝 愛知県消防操法大会 小型ポンプ操法の部

優勝 大口町消防団

大口町消防団、悲願達成！



7月24日(土)、愛知学院大学日進キャンパスで、第55回愛知県消防操法大会がおこなわれ、愛知県内の消防団の精鋭たちが一堂に介し、消防の技術を競いました。大口町消防団は、丹羽郡代表として小型ポンプ操法の部に出場しました。

小型ポンプ操法とは、4人(他に補助員1人)一組で、火災現場を想定した火点(かてん)と呼ばれるものを放りつけて放水し、撤収するまでの一連の操作をおこなうものです。一人ひとりの技術・機敏な動き・正確な動作だけではなく、チームワークが要求される団体競技です。

大会当日は、最高気温が35度を超える猛暑日にもかかわらず、多くの観客や消防関係者が会場に集まりました。「優勝するため」に積み重ねてきた訓練の成果を存分に発揮した大口町消防団。タイムは42・49秒、総得点は91・50点という高得点で、並みいる強豪を抑え、見事「優勝」しました。11月12日(金)には、蒲郡市で開催される全国大会に出場します。今後も皆さんの応援をよろしくお願いします。

Interview

指揮者

はせがわ つよし
長谷川 剛(36) 余野

「今回の大会で、指揮者4回目の出場。誰よりも走り、誰よりもホースを伸ばしています。それが自信に繋がっているんだと思う。」

「半田市消防団は同タイム、同得点で2位になってしまったので本当に悔しかったと思う。半田市消防団のためにも、全国大会では優勝・日本一を目指します。」

Interview

せんだ ひろかず
1番員 仙田 裕和(31) 河北

「操法の訓練は本当に大変だった。とにかくホースを真っ直ぐ伸ばすこと。それが本番でできるように、必死に練習した。その結果、大会本番ではホースを真っ直ぐ伸ばすことができて、本当にうれしかった。この調子で全国制覇できるようにがんばります。」

Interview

「妻の支えが本当に大きな力になりました。応援してくれた妻や家族には、感謝の気持ちでいっぱい。」
「優勝できたのは、サポートメンバーや団員、指導員、事務局、応援してくれた皆さんのおかげ。決して自分たちの力だけでは優勝を勝ち取ることはできなかった。とにかく感謝の気持ちでいっぱいです。」

にわ よしひで
2番員 丹羽 嘉英(34) 大屋敷

Interview

わたなべ だいすけ
3番員 渡邊 大介(33) 下小口

「3番員は、とにかく指揮者をふらつかせないように慎重にしながらも、早く水を送るようポンプを操らなければなりません。絶妙なアクセル操作は、練習を繰り返すことで覚えました。」
「11月の全国大会は優勝目指してがんばります。」

Interview

「今大会は、絶対に優勝するという強い気持ちで臨んだ結果、優勝できたのは嬉しい限りです。」
「一人ひとりが同じ目標、「優勝」するために動いていたので、必然と選手も団員もまとまっていたように感じます。全国大会も出場するからには、優勝します。」

せんだ のぶあき
補助員 仙田 昇陽(41) 河北

Interview

「勝因は、6年前から優勝を目指し地道に努力した結果だと思います。また、前任の脇坂指導員が担当を外れても、指導環境などを整えてくれたことも非常に大きいです。」(丹羽指導員)

「優勝できたことは、嬉しい以外に言葉が浮かびません。操法を通じて最高の仲間たちと出会い、最高の成績を残すことができました。せっかく掴んだチャンス。もちろん日本一が目標です。」(渡邊指導員)

「指導するにあたり、自分自身の目を大口町消防団の操法に慣らし過ぎないように努めました。今より一段階レベルアップして、全国一番を目指します。今後ともご声援よろしくお願いします。」(千田指導員)

「操法に専念できるよう、選手一人ひとりに合わせた器具類の整備など苦労したこともありました。しかし、選手が目指すものは、サポートメンバーも目指すもの。今後も全力で選手をサポートします。皆さん、熱いエールをお願いします。」(サポートメンバー)

さあ、君も消防団で活躍しよう 大口町消防団員募集

消防団員は、地域住民の生命や財産を守るため、地元地区と密着した活動をしています。大口町では、9分団71名(定員97名)が活躍していますが、団員の不足が問題となっています。消防団の活動には、1人でも多くの団員の力が必要です。18歳以上の方であれば、男女問わずどなたでも入団できます。

問合せ先 役場 町民安全課
☎95-1111 内線112